



注目を集めたジャクソンホール会議とは？

毎年恒例の「ジャクソンホール会議」が8月24-26日に開催されました。

結果として今年の会議で大きなサプライズはありませんでしたが、直前には警戒感から株価が大幅に下げる場面もありました。

市場関係者の間では8月の一大イベントとして知られるこの「ジャクソンホール会議」ですが、そもそもこの会議とはどういう会議で、なぜ注目され、今年は何がポイントとなったのでしょうか？

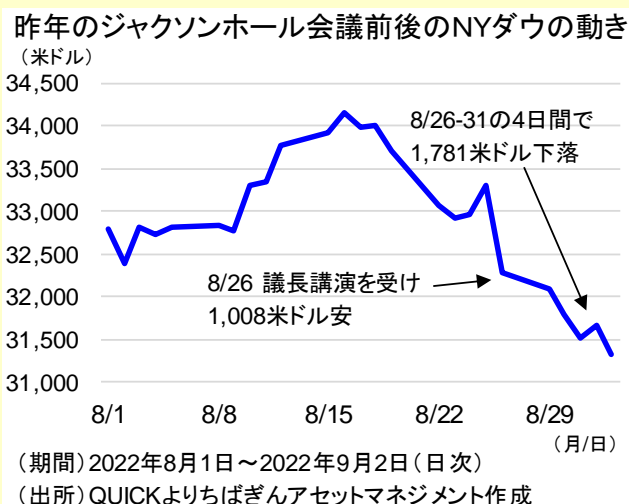
ジャクソンホール会議とは？

- ジャクソンホール(Jackson Hole)は米国ワイオミング州にある地域の名前で、リゾート地として知られています。ここで毎年8月下旬にカンザスシティー地区連銀の主催で開催される**経済シンポジウム**が「ジャクソンホール会議」と呼ばれています。
- **日米欧など世界各国の中央銀行総裁**や**経済学者ら**が参加し、**世界経済や金融政策**について議論します。

地区連銀主催のシンポジウムがなぜそれほど注目されるのでしょうか？

市場が注目する理由

- 米国の中央銀行である**米連邦準備制度理事会(FRB)議長が講演**することが注目される理由です。その後の**金融政策の方向性**に関わる発言がなされることも多く、市場関係者は毎回関心を寄せています。
- **昨年**の会議では、パウエル議長が**景気よりインフレ退治を優先する姿勢を強調**し、ダウ工業株30種平均(NYダウ)が1,000米ドル以上下落するなど、早期の利下げ転換を期待していた**市場に大きなショック**を与えました。



※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



今年はどのような発言があり、市場はどう反応したのでしょうか？

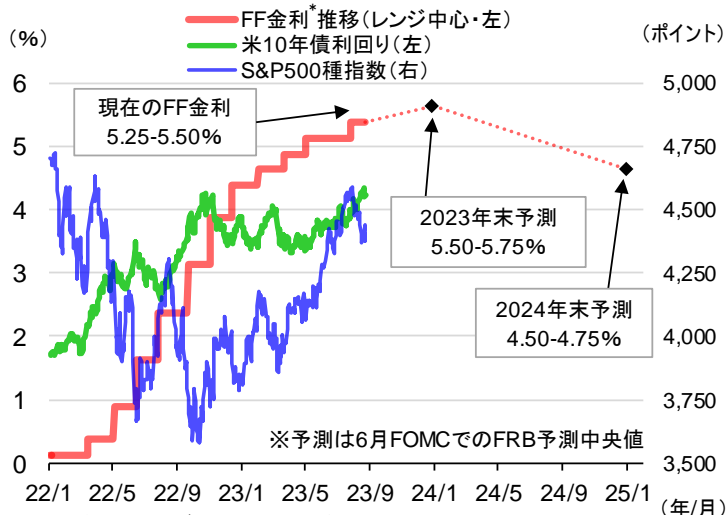
今年の会議のポイント

- パウエル議長は従来通り経済指標に基づいて金融政策を決めるとしながらも、「インフレ率は依然高すぎる」、「適切ならさらに利上げする用意がある」と述べました。
- 市場は引き締めに積極的と受け止め、年内に追加利上げがあるとの見方に傾きました。ただし、内容自体に大きなサプライズはなく、警戒感で下落していた株価は講演後に値を戻しました。

今後の注目点

昨年来、米国ではインフレ抑制のため急速な利上げが行われるなか、株価は先行きの利上げ見通しや長期金利の動向に敏感に反応してきました。利上げが継続すると予想され、長期金利が上昇すると、株価が反応（下落）するという展開です。

米国の政策金利と長期金利・株価の推移



今後はどこまで利上げするかよりも、来年の利下げ開始時期やペースに関心が移るでしょう。発表される経済指標も重要ですが、**9月19-20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)**で示される**金利の先行き予測**がより大きな意味を持ちそうです。来年末のFF金利予測が上振れるなど、引き締めを長く続ける姿勢が鮮明になると、市場は将来の景気後退懸念を強める恐れがあり、注意が必要です。

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

【本資料に関する留意点】

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした上記日時における当社の意見です。投資に関する最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて本資料は作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。加えて、本資料に記載された当社の意見ならびに予測は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。掲載されている見解は、本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。